

関電 大飯3・4号機再稼働問題 地震動による制御棒挿入の遅れ

活断層の連動評価で耐震バックチェック制御棒挿入性能に赤信号

評価基準値(許容値): 2.2秒

これを超えると大飯原発3・4号の運転はできない

これまでの評価(現在も有効)

耐震安全性評価
中間報告として、
保安院が了承した
数値^{*注1}

700ガル

2連動

→ 2.16秒

地震動なしの1.65秒からの
遅れ0.51秒

基準値2.2秒を超えない！

もし活断層3連動
に適用すると...

1000ガル^{*注2}

3連動

→ 2.38秒

地震動なしの1.65秒からの
遅れ $0.51 \times 1000 / 700 = 0.73$ 秒

基準値2.2秒を超える！！

注1) 2009年(H21年)12月 大飯発電所3, 4号機 新耐震指針に照らした耐震安全性評価(中間報告追補版)に関する補足説明資料。保安院は複数回の審議を経て2010年(H22)11月に了承。

注2) 保安院は「活断層の3連動で760ガル」とした。これは断層モデルに基づく評価であるが、原子力安全委員会の審査指針では、応答スペクトルに基づく評価とあわせ「双方の実施」を求めている。断層モデルだけで760ガルと断定するのは審査指針に違反している。この760ガルでも、制御棒の挿入時間は評価基準値2.2秒を超える。

ここに来て

3月13日の保安院
資料^{*注2}

700ガル

2連動

→ 1.88秒

地震動なしの1.65秒からの
遅れ0.23秒となっている

この数値を使うと
3連動では...

1000ガル

3連動

→ 1.98秒

遅れ $0.23 \times 1000 / 700 = 0.33$ 秒となる。

基準値2.2秒を超えない！！

注2) 2012年(H24年)3月13日 原子力安全委員会ストレステスト検討会における原子力安全・保安院「総検第4-1号等で示された質問に対する回答」(総検第5-3号)。

3月27日の政府交渉で、保安院は、「関電が保安院に伝えた数値をそのまま使った。保安院として確認したり、審議会の審議を経たものではない」と回答した。